



# 波 濤

第 1 3 号

発行 放送大学同窓会  
神奈川学習センター支部  
編集 総務委員 会生  
責任者 押山 睦 生  
発行日 平成 9 年 3 月 1 日

## 過去から未来に

神奈川支部会長 押山睦生

三月弥生、会員の皆様には元気に春をお迎えの事とお察し申し上げます。昨年当支部に於きましても、皆様の御協力により無事運営して行くことが出来ました。

二度の講演会を始め、「キリンビール工場見学」「鎌倉散策シリーズ」など、楽しい雰囲気の中で行う事が出来ましたし、また会報『波濤』を年二回発行して、皆様方とのコミュニケーション作りにお役に立てた事と思います。

とりわけ前執行部のお力により『波濤特集号』を発行できました事は、支部の歴史を振り返り、未来に向かって行く一つの区切りとして意義あることだと思っております。

フォスター・プラン活動でも、援助するチャイルドを一人増やすことができ、計四人となりました。皆様のご寄付によって一層の国際貢献ができることは素晴らしい事だと思います。

悲しい事もありました。当支部及び本部理事の糸井アサノさんが急逝なされた事です。ここに心より御冥福をお祈りいたします。

さて、一九九七年の今年を展望してみますと、国際的には七月一日に香港が中国に返還され、情勢次第ではかなりの激動も予想されます。

また国内でも政治は自派社民の連立内閣という不安定のままですし、経済も年初来の円安、株安、金利安というトリプル安の状態が続き、見通しはかなり暗いといわねばなりません。

このような状況の中で、放送大学の全国化をにらみ、同窓会組織の在り方を巡る議論もいよいよ白熱化しようと

しています。当支部でも真剣に討議を重ねつつ、スケジュールに合わせて活動していくつもりですので、皆様の御支援、御協力をお願い致します。今年度の干支は「丑」です。牛と言えば好物はクローバーですが、クローバーの花言葉は「幸福」です。今年も会員の皆様に一層の幸福が訪れますよう心から祈念致します。

“フォスター・プラン便り”  
優しい心で  
国際協力

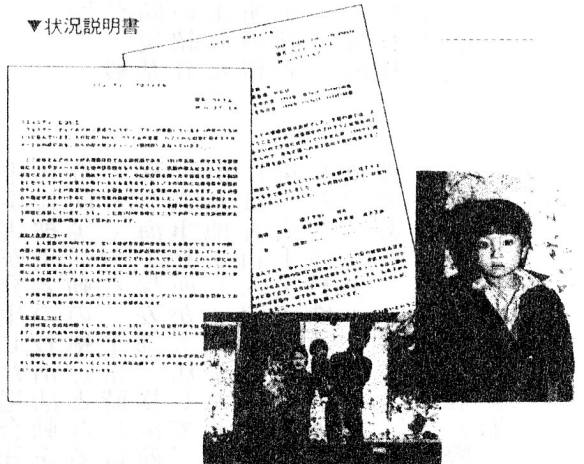
フォスター・プラン

実行委員会 加藤あいし

同窓会活動の主要テーマの一つとして国際貢献を掲げ、フォスター・プランへの協力を始めてから七年目を迎えました。これだけ続けることができたのも、偏に会員皆様方の温かい御支援の賜と、深く感謝いたしております。フォスター・プランは発展途上国に住む子供と、その家族や地域に対して経済的・精神的な援助を提供するものです。同窓会では、これまで段階的に六名のチャイルドを支援してきましたが、このうちの二名は援助期間が終了して、現在は次の四名を援助しています。



▼状況説明書



▲フォスター・チャイルドと家族の写真

ルーシーちゃん(七歳 ケニア)  
ソムチャイ君(十一歳 タイ)  
エリザンドロ君(十六歳 ガテマラ)  
パロ・バラちゃん(十一歳 バングラデシュ)  
時折、チャイルド側から現状報告を兼ねた感謝の手紙や図画、写真などが送られてきます。ペアレントである私たちからも、日本の生活や放送大学などを紹介する手紙を送っています。

こうしたフォスター・プランの趣旨を理解していただくため、二学期の単位認定試験の期間を利用して、談話室に関係資料をパネル展示しています。また今回、会報『波濤』に振込用紙を同封させていただきましたので、これまでも同様に御支援・ご協力をお願い申し上げます。尚、同窓会の年会費と区別するため、用紙の通信欄に「フォスター・プラン寄付金」と押印してありますのでご了承下さい。

# 講演『自己と出会う』

## までの長い道』

講師 藤田芳光氏

去る十月十九日(土)、大岡地区センターに於いて、本部初代会長の藤田芳光氏を講師に迎えて講演会が開催されました。

『人間存在の過去性を越えて実存として生きる』と題して、自己の体験を学問の域にまで高めたお話しは、迫力もあり興味深いものでした。また浜口センター長を始め、坂井助教、有末事務長も参加され、熱心に質問されるなど、充実した講演会となりました。

(企画委員会)

## あるがままの

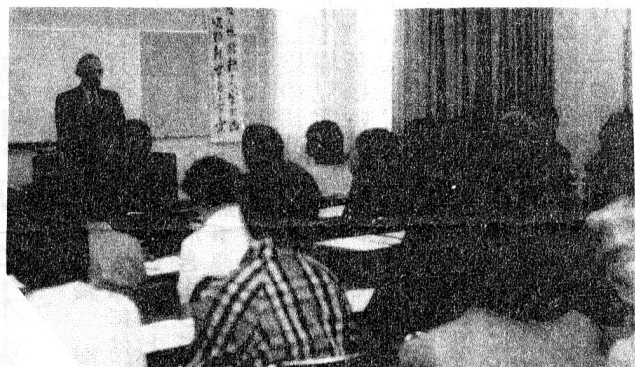
## 自分で……

佐藤美生子

人は誰でも、健康で生きがいのある生活を送りたいと願っている。

『自己と出会うまでの長い道』と題した藤田芳光氏の講演をお聴きした。

氏は、どの様にして自己に出会えたかを、一生を一日二十四時間の時計に喩えて、分かり易く説明して下



さった。神経症から何度も自殺を凶ったこと、神経質で小心者であり、眠れない苦しみから逃れたいと座禅を始めたこと。またさらには、従容として死に就きたいとの願いから放送大学に入学したことなど、シヨッキングなお話しでした。自己実現を果たし立派に、社会で重要な役割を担っている人が、実は人

一倍神経質だったり、元気で強そうに見える人も周囲からそう見られているだけで、自分自身では悩んでいる人が多くいること、同窓会本部初代会長として活躍されていた氏が長年神経症に悩まされていたなど、外見からは想像し難いことである。氏は自らの神経症と戦うために様々な試みをし、その中で森田療法に出会ったという。

神経症になり易い要因として真面目・内向的・負けず嫌い・努力家・心配性・完璧主義等が挙げられるがこの様な性格の人は、社会の色々な分野で質の高い仕事をし、多くの人々から信頼されている場合が多いが、葛藤に陥り易いということである。

負けず嫌いで努力家、完全欲が強いが故に劣等感のかたまりになってしまう。氏の場合、自殺を凶った時は性格の要因が負の方に大きく作用したのであろう。森田療法に於いては『悩みながらもやるべきことはきちんとやる。気になると、自分の嫌なことは全て傍らに置いて、つまり自分の気持はさて置いて、健康人らしく伸び伸びとした行動をする。今すべきことをよく考える。頭で考え解決しようとする』ことは止めて、

行動し体験する。それは気分がすぐれなくても、好きでなくても、例えば人に会ったら明るく挨拶し、会社に行ったら仕事をこなすなどである。足し算も引き算もない、欠点も何もかも全てそのままの自分を認めることで、とらわれから開放され心理的にも悩みが消失する状態をつくること』と語られている。

氏は神経症とがっぷり四つに組んで戦ったことで、神経質などの性格を良い方向に転換し『神経症は自分の妄想より起こる』として、現在あるがままの自分を愛し、従容として自らの生を受け容れているのだと思われた。

## 横浜海上防災

## 基地見学会に

## 参加して

伊東広明

十月二十八日、未だ一般に開放されていない防災基地を、会員の加藤氏の紹介で見学する機会に恵まれた。見学会は、集合場所の桜木町駅に十人目の私が到着して始まりました。

ランドマークタワー等のビル群、整備が進み変わり行く『みなとみらい21』の新港地区を眺めながら防災基地に向かった。



地下一階地上四階の防災基地のモダンなエントランスホールを入ると、管理課長、係長の出迎えを受けた。この横浜海上防災基地は、東京湾における原油、LPG等危険物を積載した船舶の衝突事故、あるいは南関東地震等のような大規模海上災害が発生した場合速やかに被災者の救済活動を行う防災活動の拠点となるところである。平常時には、横浜海上保安部、横浜航路標識事務所が入居して、船艇基地として、また非常時には五百人収容可能な武道場、海上災害をにらみ想定した各種特殊救難訓練用水槽、ヘリポート等がある施設である。

天皇、皇后両陛下が最近防災基地を見学された際に『訓練水槽のここにお立ち



# “支部活動報告とお誘い”

## “春の海を 歩いて見ませんか”

### — 荒崎海岸ハイキング —



(交通)  
京浜急行久里浜線三崎口駅から荒崎  
行きバス20分、終点荒崎下車。熊野  
神社、岩床まで徒歩5分ほど。

波しぶきが豪快にあがる春の荒崎海岸ハイキングを計画しました。まだ風がすこし冷たいかもしれませんが、新鮮な空気を吸って歩きましょう。

岩場を歩いて一汗かいた後は景色の良い所でお弁当を広げる予定ですので、各自持参するか駅前でお求め下さい。

日時 4月20日(日)10時～16時  
雨天中止  
集合場所 京急久里浜線の三崎口駅改札口  
目印はブルーの同窓会旗  
昼食 お弁当持参(駅前に売店有り)  
参加申込 〒231 横浜市中区山田町8-2-1008  
越川敏子 ☎045-253-1305  
申込締切 4月13日(日)

「なられました」と案内されて何か特別な人になったような気分になった。また射撃訓練場では弾痕を見て熱心に状況分析、心理学の勉強、これには案内役の課長、係長先生もタジタジ、昼食時間も忘れての研修になった。見学者は大いに質問すべし！さらに研修は、バイキングスタイルの昼食会でも一層盛り上がり楽しい一日でありました。

## 鎌倉散策に 参加して

中尾弘子

晩秋の色濃い十一月十七日『鎌倉散策(第二回)』に参加、小春日和の一日を楽しく過ごして参りました。鎌倉駅に向かう江の電の車窓からは波一つない穏やかな海が見え、朝の慌ただしさも忘れようでした。鎌倉駅から江の電で『極楽寺』へウォークラリー方式でクイズを解きながらの散策が始まりました。



極楽寺では、開山した忍性の遺した製葉鉢と石臼、北条時宗のお手植の桜の木を見学し、海が見下ろせる『成就院』へ。古い『五輪塔』は一部しか残っておらず説明がないと見落としてしまいました。

この後、『虚空蔵堂』を経て『御霊神社』へ。ここは別名『権五郎神社』と呼び、おかめやひよっとこ等の面を掛けた行列が町内を練り歩く『面掛行列』という珍しい行事が九月十八日行われるそうです。長谷寺本尊の『十一面観音像』は、本造では日本最古のものとか。ここでは昼食を含め一時間程過ぎました。『光則寺』から『高德寺』、次の『甘縄神明社』では即答できない問題にあら



でもない、こうでもない頭をひねりました。最後の『鎌倉文学館』では館内の展示物は勿論の事、前庭の素晴らしさと共に眼下に広がる海、時間が許せば階段に腰かけていつまでも眺めていたい気分になりました。文学館に向かう途中の『長谷子ども会館』も覗いて見たくなる様なギリシャ建築でした。今回の散策はクイズを解きながらであった為、史跡をじっくり観る事ができ、打ち解けた雰囲気にもなりました。「クイズが嫌いな方は無視して結構です」との事でしたが棄権した方はいなかった様です。最後に採点をして戴いて一喜一憂、久々に学生気分を味わった楽しい一日でした。

# “うえるかむ”

星 礼子

サークル『うえるかむ』は平成七年九月、大学の国際的な活動に協力するなかで国際感覚を身につけ、国際文化交流の向上と会員相互の親睦を図ることを目的として設立されました。

会員数は各学習センター合わせて七十名程で、英会話の学習やセミナーハウスでの一泊研修、海外の放送大学との交流等を行っています。

昨年の九月には、タイのスコタイ・タマチャート公開大学『STOU』を訪問しました。格安ツアーを利用した四泊六日の旅で、二十代から七十歳までの男性八人、女性十一人が参加しました。

二日間はバンコクを拠点にしてフル観光し、後の二日間を大学訪問と学生との交流にあてました。

『STOU』は三年前に私達の大学を訪れたことがあり、何人かの学生さんとも再会できて大いに友情を深めました。

また、立派な会議室でイアム学長自ら歓迎会を催して下さり、素敵な学長と握手し一人一人プレゼントを頂いた時は、感激で胸が一杯になりました。



昼食後はゆかた姿に着替えて、日本語と英語で「さくら・さくら」と「夕焼けこやけ」を共に歌い、盆踊りやタイの踊りも輪になって楽しみました。

その時の模様は「大学の窓」でも紹介されています。

帰国の日には、大学のスタッフと学生たちがホテルに迎えに来て下さり、ツアーでは行けない所やスーパーマーケット、街の食堂などへ案内して頂きました。

そしてお別れパーティーで大いに盛り上がった後、空港で別れを惜しみつつ再会を約束しました。

サークル『うえるかむ』では、英語が苦手でも国際親善に関心のある方などなたでも歓迎します。神奈川では、ラジオの「英会話入門」のテキストを中心に勉強を始めています。

活動は第二木曜と第四水曜日、午後一時半より入会ご希望の方は左記までご連絡下さい。

星 礼子  
電話(四四)九六四七  
桑島 電話(四四)九六〇〇



# “Together”

片野克巳

《最後から》  
一番日田の田心組

「テニスが好きだから」そう確信し合った仲間も今は少なくなりました。十年前のまま時が止まる訳でもない。これからのこのクラブを考え直さなければならぬ状況である。

そうなのだ、今このクラブは崩壊寸前なのだ。部の恥を晒すようで心苦しいがこれが今の我がクラブの姿であるから仕方がない。

月一回の練習会でテニスを楽しむことになっているが、集まる人は十名程。四十数名の部員のほとんどが「静かなる群衆」となってしまう。

クラブの主旨に賛同して入部したにもかかわらず、練習会にも参加しない人がこれ程いるとは。

部の方針に対する声なき抵抗なのか、あるいは単なる気まぐれで、理解せずそのまま黙っているのかも知れない。

皆が全て参加するのは困難だろうが、今より部を盛んにするために、何か行動に移す必要あるだろう。部を解散に追い込む愚を避けるためにも、もう一度

初心に帰ろうと思う。テニスが好きなので自分のほうに、そう言うことでしか参画できないかもしれないが、それでもテニスが好きなから」

《活動内容》

- 一、月一回の練習会
- (毎月第一日曜日)
- 二、平日テニス(含、練習会以外の日曜日)週三
- 三、四回、打ち合い中心
- 三、九月に二泊三日の合宿
- 四、有志で年二〜三回の合宿
- 五、冬期スキー合宿(二月頃)

《連絡先》 片野克巳

電話(四四)八七〇五





# “北海道地域

## 学習センター

### に学んで”

和田恭子

平成八年九月、六年間の放送大学を無事卒業することができ感無量です。

初めの四年間は神奈川学習センターで、残り二年間は北海道地域学習センターのお世話になりました。当初関東のシステムと地域学習センターとの違いに戸惑いを感じながらも、北大構内のすばらしい環境の下、センターの人々との温かい交流のお陰で楽しい放大学生を送ることができ感謝の気持ちで一杯です。

北海道地域学習センターは平成二年に開設され、北大南端近くのクラーク博士の銅像斜め向かいにあります。緑の屋根、白い壁の簡素な建物は明治四年の建築



で、札幌農学校の『昆虫教室』として歴史ある建物です。廻りは色彩鮮やかな芝生とハルニレの巨木に囲まれ、北大生のジンギスカンの煙りが閑かに一面立ちこめ、勉学の場としては放大随一といえるでしょう。

地域学習センターのシステムをご存知ですか。学生の種類は「選科履修生」と「科目履修生」だけで、卒業目的の全科履修生は放大の全国化を待たねばなりません。

学習方法は自宅でできる関東のシステムとは違いセンターに行かなければ視聴できません。定時視聴という決められた授業時間割に基づきテレビやラジオ教室で集団で視聴する授業と、定時視聴できなかった人のための再視聴があります。再視聴では人数が多い為、予め電話で科目名と視聴時間を予約するシステムになっています。又、面接授業は



集中面接のみ行われます。

以上のように地域の学生は厳しい環境にもかかわらず毎日せっせとセンターへ足を運び懸命に努力しています。両方のシステムを経験した私には地域学習センターの学生の熱意に頭の下がる思いと同時に関東の学生がいかに恵まれているか今改めて再確認しています。放大同窓会神奈川支部の皆さん、是非一度北海道地域学習センターを訪れてみて交流してみてくださいいかがでしょうか。

## 大学院の生活

吉川智子

放送大学を卒業し、四年が経ちました。卒業後、横浜国大の大学院修士課程二年を終え、現在は東北大学教育心理学科の博士課程二年に在籍しています。

専門は「聴覚言語障害」で、人工内耳や補聴器の設定について研究しています。簡単に言うと、聴覚障害者にどの様に音声を書き取らせたら、より聞こえが改善されるかを研究しています。

放送大学の内須川先生の「言語障害」の授業を受講した事がきっかけとなり、現在の専門に進みました。

大学院の生活も、今年で五年目を迎えます。初めは大学と異なるシステムに随分戸惑いました。

大学院の特徴は、まず授業よりも研究が重視されることでしょう。ですから習得すべき単位数が少なく、修士は二年過程で三十二単位、博士課程は三年で十二単位の履修で卒業ができません。その代わり卒業論文にあたる修士論文と博士論文の研究が重視され、学会での発表が要求されます。又指導教官が決められ、教官との一対一の指導によ

り研究が進められていく点も大学とは異なる点です。ですから大学院を選ぶ時は大学のレベルを決めるのではなく、むしろ自分のやりたい研究をしている教官がいるかを調べてから選択する事が重要です。私が横浜国大を選んだ時は、教官の専門をよく調べずに受験したので、二年間とても苦労しました。

現在の生活は、大学の指導教官の他に、他大学や研究所で、そして病院の耳鼻科や聾学校の各先生の指導を受け研究しています。

暗中模索の日々ですが、今年で最高学年になります。今は早く博士論文を提出し、研究者としてのスタートラインに立ちたいと思っています。

最後にこの紙面をお借りして、大学院に進む資格を与えて下さった放送大学に感謝致します。





# ハノイから

## の手紙

(あれこれ編)

出口仁美

今回は「ノー・プロブレム」ハノイを紹介しましょう。

友人と美容院に行った時の事です。ハノイは外人が安心して行かれる清潔な美容院は二、三ヶ所しか無くここもその中の一つ。

シンガポール人の美容師はともかく、助手であるベトナム女性の技術が未熟で洗髪後にはブラウスの襟から背中にかけてぐっしょり

気持ち悪いと思いつらいすに腰掛けた途端、首から背中にかけてグイッとタオルを突っ込まれ、いきなりその上からドライヤーでガ

ーガー。友人はと見ると首からタオルが入らないらしく、シャツの裾からこれまた同様にタオルを突っ込ま

れガガー。びっくりする間もなく「マダム、ノー・プロブレム、乾いた」。

私達は思わず顔を見合わせてしまったのです。ハノイに赴任する際、日常品を一杯日本より送りま

すが、それ等が適当に抜き取られ、表示価格の三分の一位の値段で市場に出ま



「私達一人で偵察に出かけたのです。なる程、ある店の中には日本の有名メーカーの口紅が、五本置かれて

いました。値段は三分の一以下。売子がすかさず寄ってきて自分の唇やら手の甲

に塗って色を見せてくれたので、その中から二本分の代金を払い、品物をもらお

うとしたら何と、今迄散々塗りたくった後の口紅のキヤップを閉めて手渡すのです。

どの口紅も何回も使用した事は、その丸い先端から歴然としているので、てっき

りテストだと思っていた私に甘かったのです。「日本では一度でも使った品は売らないし、買ひもしない」と言う私に対する彼の答えは、「マダム、未だ何回も使っていないからノー・プロブレム」だった

と日本製の口紅で彩られた彼女の唇が思い浮かびます。ベトナムには、シルク製品を売る店が沢山あります。その一店で友人が買おうとしたセーターからカビの強い臭いがしてきました。私達の話し声が届いたのか、「それはローシルクの臭いだ」と



「違うわよ」と言い乍ら、私が駆け寄って彼の鼻に突き付けると、「これはスゴイ! 強烈なカビの臭いだ」と言っていたいして高くもない鼻を摘まむ仕事に、しばし三人で大笑いしたのです。しかし、その後に出た彼の言葉が、又しても「マダム、洗えばその臭いは消えるからノー・プロブレムだ」でした。何事も「ノー・プロブレム」で通すこのおらかな態度に乾杯(完敗)です。

糸井アサノさん  
卒業 平成四年九月  
専攻 自然の理解  
平成八年九月十八日  
死去。心よりご冥福をお祈り致します。

### 編集後記

十鉢程もあるデンドロビウムが今年も又、見事な花を咲かせています。多忙と不精癖が幸いし手を掛け過ぎないのが良いようです。

暖かになつたら外に出しますが、徐々に慣らす様この時だけは気を使います。冬は充分寒さに当てるほうが良く、気にして早く入れ過ぎると花芽が付きません。肥料は成長初期に少しだけ、水もならだからやり過ぎない。なんだか人間と同じだと思いませんか。

新企画「サークル紹介」では、在学生と卒業生が共に参加しているグループに焦点を当てたいと考えています。「〇〇サークルについて知りたい」「××クラブを紹介したい」等、情報や原稿(六百字程度)を同窓会事務局までお寄せ頂ければ幸いです。また俳句や短歌、挿絵などもお待ちしております。(森西)

### 支部年会費納入のお願い

当支部では、会員の皆様に支部年会費1,000円を納入して頂いております。平成9年1月現在の納入者は、会員596名中358名です。

平成八年度分未納の方には振込用紙を同封させて頂きますので、よろしくお願い申し上げます。

尚、すでに納入済の方はご容赦下さい。(会計係)

口座番号 00270-1-55585

〒232 横浜市南区大岡2-31-1

放送大学同窓会

神奈川学習センター支部事務局